

が明るくなったと思ったら、伐採跡地に出る。枯枝に足をとられながら下降を続けると、伐採地のはずれで、ようやく滝が出てきた。小滝に続いて4 mの滝。右岸を下る。これでちょっと気を取り直したが、このあと30分近くまた平凡な下り。おまけに伐採跡地が何カ所も出現し、歩きにくい。2つ目の4 m滝は、樹木を利用して左岸を下る。

やがて沢は雑草が繁茂して歩きにくくなる。しかたなく伐採作業時の踏跡と思われる細い踏跡を拾いながら下る。それでも最後にナメ滝2つが出現した。11時25分、林道に出て、下降終了とする。 (記)

[タイム] 巽沢右俣下降開始(9:30)→林道(11:25)→国道(11:45)

### 保太橋沢中俣 1992年9月12日

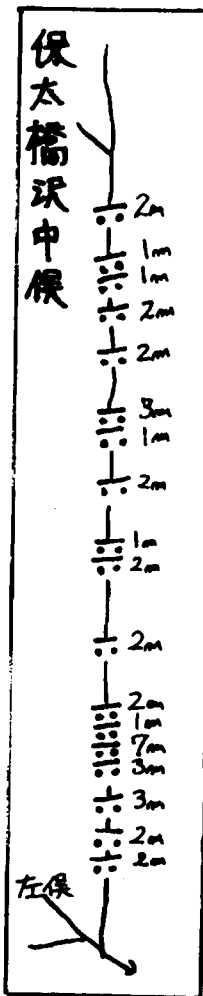
7時45分、廻行開始。保太橋の下からすぐ廊下が始まり、今日が今年最初の沢登りとなる佐藤君は通過に苦労している。

廊下の突き当たりは10mの滝。左岸を直登して上に出るが、そこには踏跡があった。保太橋のたもとの別荘脇からのびてきている踏跡のようである。

沢には適当な間隔を置いて、次々に滝がかかる。5 m滝は右岸に取り付き少し登ってから、水流の左端を登る。スタリ沢が15mの滝をかけて合流した先にある10mの滝は、やはり右岸に取り付き、バンドをひろいながら斜め上方に上がり、登りきる。

左岸から支沢が合流するとゴルジュとなった。側壁が切り立ち、沢幅は1~2 m程となる。そしてその奥に3つの連続する滝。最初の5 mは左岸を直登。そして落ち口を右岸に渡って、上の10mの右岸に取り付き、灌木を利用して越える。続く7 mは、右岸を直登である。このあたりが保太橋沢の核心部と思われる。

滝の間隔がやや長くなってきたと思い出した頃、10mの滝が行く手をふさぐ。ここは一部しぶきを浴びながら左岸を登り、岩櫃をトラバースして越える。この上の滝2つは、右岸を直登した。



このあと沢はやや平凡となり、滝はかからなくなる。やがて、右俣出合。そしてそこから5分とかからないで今日の目標中俣の出合である。中俣は、左俣に比べ出合はかなり貧弱である。ヤブをかきわけるようにして入り込むと、すぐナメが出てきた。そしてその後小滝が次々とかかる。1~3mの小さなものばかりであるが、中に1つ中俣最大の滝7mがあり、左岸を直登した。

沢筋は急傾斜のまま、相変わらず小滝をかけながら続く。中にはよくみがかれていて、ちょっと手強い滝もあるが、落差が小さいために、いずれもそんなに苦労することなく越えられる。中俣に入り込んで1時間40分、沢の傾斜がゆるやかになってブッシュで埋まり、源頭が見通せる場所に出て、遡行終了とする。あとは下降を予定している右俣めざし、左岸の尾根に登る。

(前)

[タイム] 保太橋沢出合(7:45)→中俣出合(10:45)→中俣終了(12:30)

### 保太橋沢右俣

1992年9月12日

中俣との境の尾根から小沢ぞいに下降し、12時50分、下降開始。右俣は急傾斜の下りとなっているが、滝はかからない。何もないうまま30分ほど下ると、沢はトイ状の流れとなり小滝やC. S.滝がかかる。といっても通過に特に苦労するわけではなく、右岸が楽に下れる。それでもこれは変化のきざしである。先が楽しみとなってきた。

やがて目の前が切れ落ちる。滝である。10m 2段。上段は左岸を、下段は右岸をクライミングダウンする。このあと7mの滝の左岸を捲いて下ると、いよいよこの沢最大の滝20m 4段滝である。左岸の岩尾根状の部分を下るが、上部は垂直に近い岩場を灌木に

